

不燃物の正しい分別方法を再確認しよう



シリーズ「ごみ減量をいかにして成功させるか」④

不燃物の収集は、缶・金属類の日とびん・ガラス類の日を月2回です。不燃物は収集後、それぞれの性質に合わせて品目ごとにリサイクルされます。今回は、そんな不燃物の分別ポイントをおさらいします。

【問】市生活環境課リサイクル推進係 (☎88・8933)



缶・金属類は右の表を参考に分別を

飲料用の缶類はその大部分がリサイクル可能な貴重な資源です。収集された缶は、工場で磁石付きの機械によってアルミ缶とスチール缶に分別されます。そのため、アルミ缶とスチール缶を分ける必要はありません。その他の金属は、品目によって出し方が異なります。また、電子レンジや掃除機などの家電は、不燃粗大ごみとして出してください。詳しくは、ごみ分別アプリで確認するか、市生活環境課へ問い合わせてください。



工場での缶の分別過程



分別する金属ごとの注意点

	品目	注意点
(飲料用) 缶類	ジュース缶 ビール缶	アルミやスチールマークが付いているものは中身を洗って缶類に分別する
	スプレー缶	空にして、穴をあけてから「その他の金属」に出す
その他の金属	包丁 カッターナイフ ナイフ	新聞紙などに包み、中身を明記した袋に入れて「その他の金属」に出す
	お菓子缶 缶詰缶 食用油缶など	中身を洗って「その他の金属」に分別する
不燃粗大ごみ	電子レンジ 掃除機 自転車など	出せるのは、家電やチャイルドシート、ベビーカーなど1人で運べるものだけ
その他	塗料缶 ドラム缶	金属としては出さず、販売店や専門業者に相談する

びん・ガラス類の分別の再度確認を

4月からびんとガラスは、白色(透明)、茶色、その他の色の3種類に分けて収集しています。

●びんの分別と主な品目

- ▷白色(透明) = 牛乳びん、ジャムのびんなど
- ▷茶色 = ビールびん、栄養ドリンクのびんなど
- ▷その他の色 = ワインのびん、酒びんなど

3月の可燃ごみの量

柳川市 1194トン	みやま市 417トン
---------------	---------------

3月の市内の可燃ごみの量は1194トン(前年同月1568トン)でした。前年同月と比べて23%削減。可燃ごみの割合は、柳川市74%:みやま市26%でした。3月から有明ひまわりセンターの建設費負担割合を決める可燃ごみの測量が始まっています。引き続きごみの分別にご協力をお願いします。

よくあるお問い合わせ

- Q** 缶を出すときは、つぶさないと回収されないのですか？
- A** つぶしてもつぶさなくても回収されます。中をきれいに洗い、水気を切って出してください。
- Q** びんに付いているラベルは剥がす必要がありますか？
- A** びんのラベルは、剥がす必要ありません。びんは、ふただけを外して出してください。

柳川とおき歴史の話 - 立花宗茂外伝 - 第9回

【問】市観光課観光推進係 (☎77・8563)



武勇と算術の達人 小野和泉

関ヶ原ののち、改易となった立花家にとって、わずかな救いは家臣たちが路頭に迷うことがなかった、という点でしょう。不敗の立花宗茂の家臣を召し抱えたい、という諸大名が引き抜きの列を成しました。筆頭家老の小野和泉(鎮幸)は、客将として、250余石をもって熊本藩加藤家へ仕えました。

彼は天正16(1588)年6月、宗茂が柳河に入城したおりには、蒲池城(現・柳川市)の城番家老となり、5千石を給せられ、宗茂より、「そなたを今後、父とも思う」と頼りにされました。

和泉は智勇を併せ持った武将で、常に先陣をつとめ、一説に参加した大戦は22。22歳から55歳までの傷は全部で67カ所。大友・立花両家から受けた感状は、68通に及びます。

文禄の役のおりには、太閤秀吉が和泉を大坂城に招いて、

「日本七槍の二」と推賞しました。ところが和泉は、戦の中で育ったため、字が書けなかったといえます。熊本藩へ招かれたおり、60歳になりますが、まだよく字を覚えていませんでした。

「朝鮮出兵のおりに毛利輝元公の信書が読めず、返事が書けず、深く恥じて、日本へ戻ってから字を妻に習い、今日にいたっております」

と清正に語ったそうです。そうかと思うと、ある時、清正と和泉が将棋を差しているとき、隣の部屋で近習が喧嘩を始め、抜刀する事態となりました。将棋で敗色の濃かった清正は、途中で投げ出して立ち上がるうとしたのですが、和泉は、「殿、見苦しい真似をなさいますな。ここへ押し掛けて来るものあらば、不肖この老人が取り押さえます。殿は落ち着いて下さりませ」

と言います。清正を赤面させたといえます。清正40歳、和泉60歳のときでした。

和泉は関ヶ原の戦いののち、居城の蒲池城で戦傷を治療していたのですが、熊本では柳河衆百人の頭となりました。

宗茂主従は京、江戸へと旅立ちましたが、資金の不足を補ったのも和泉でした。

とくに相模小田原(現・神奈川県小田原市)に到着した一行は、資金が底つき、これ以上進



蒲池城跡碑

めなくなりしました。その時です。銀子20貫(現在の価値にして300万円)を和泉が送ってきました。これまでの戦場で使用した、残りの銀を集めたのだといえます。

彼は晩年、出家して宗珊と名乗りましたが、熊本の地で65年の生涯を閉じました。法名は華徳院宗珊大居士、熊本の本妙寺近くの東光院に葬られました。

■文Ⅱ 加来耕三 (つづく)